

地元地域から開発途上国へ リサイクルのグローバル化を実現

再生資源卸売業者であり、国内では岐阜地域を中心に次の4つを事業展開している。

①古紙卸売事業：自社で回収した古紙を、国内外の製紙会社に紙の原料として供給している。②その他リサイクル事業：①と同様に、古着やアルミ缶などの再生資源についても再生原料として回収供給している。③バイオエタノール事業：シュレッダーダストならびにカンボジアの公害草を原料としたバイオエタノール製造についての実証事業を行っている。④輸出事業：古着や中古農機具を発展途上国に輸出している。

●所在地 岐阜県岐阜市岩田西3丁目429番
●電話/FAX 058-241-8077/058-241-8071
●URL <http://sunwaspa.com/>
●代表者 代表取締役 原 有匡

●設立 1979年
●資本金 3,000万円
●従業員数 50人



需要獲得

古紙・古着の無人回収ヤードの多店舗展開で回収量を増加

古紙回収業においては、地域ごとに他社との住み分けが明確になっており、新たな市場開拓は困難であるとともに、ペーパーレス化により全体の古紙発生量は減少している。しかし同社では、行政回収に漏れた資源や、小規模事業者に向けた無人の回収拠点を多店舗展開し、更に、本事業をフランチャイズ化することによって商圈地域を拡大した。その結果、同社は市場の傾向とは逆に回収量を増加させているのである。また、古着はリユース化や発展途上国に輸出することで収益を上げている。



資源回収ステーション“エコファミリー”

中古農機具を買い取り、新たにリユース事業を開始

2018年より、新規事業として中古農機具の買い取りを開始した。同社が基盤を置く岐阜県は農業総面積は全国で7位であるが、農業従事者の高齢化や後継者不足による離農が進んでいる。そこで、離農者から中古農機具の買い取りを行い、リユース事業の一環として、カンボジアをはじめとする発展途上国へ輸出している。発展途上国における農機具の普及により、農業の機械化を促進するとともに、次に述べるバイオ燃料を農機具に活用することで、2つの新規事業の相乗効果が期待される。



農機具買取販売“ぎふ農機具リサイクル”

カンボジアの公害草をバイオエタノールに転換する事業を計画

同社は、JICA中小企業海外展開支援事業を活用し、現在、カンボジアにおいて新事業を計画している。それは、カンボジアの中央部にあるトンレサップ湖で大量に自生し、船の運航を妨げている外来水生植物であるホテイアオイをバイオエタノールに転換する事業である。具体的には、ホテイアオイを原料にバイオエタノールを精製し、バイオ燃料およびアルコール飲料を製造・販売する事業である。アルコール飲料では、カンボジアで最も陶器作りが盛んなコンボンチュナン州の政府と連携し、陶器を容器とした付加価値の高いスピリッツの製造・販売を目指している。



トンレサップ湖の水上村に大繁殖するホテイアオイ

サービス